

まちづくりの4本の柱

1. 美しく生活しやすいまち

本市の貴重な資源である自然、歴史、文化を将来に継承するとともに、快適で良好な住環境を提供し、住む人も訪れる人も自然のやすらぎと歴史への親しみを感じられる美しく生活しやすいまちを目指してまいります。

まず、本市の財産である海の環境保全では、グローバルCITYプロジェクトの一環で、海洋環境の保全に向けた海の環境教育、海水浴場や海岸での清掃活動、外来植物の駆除、海の通年活用等を推進し、美しい海の継承に努めてまいります。

さらに、本市の自然や歴史、文化によって形成されてきた各地域の良好な景観を生かすため、各地域ごとの景観計画ガイドラインの作成を進め、下田登録まち遺産や歴史的風致形成建造物の保全と活用に努めてまいります。

その他、持続可能な里山づくり、ごみ処理施設計画の見直しやごみの減量化・資源化、伊豆縦貫自動車道の更なる事業促進や道の駅整備、適切な道路環境の保全や橋梁の長寿命化と安全性の確保、持続可能な地域公共交通の構築や市役所用地を含む伊豆急下田駅周辺地区の整備基本構想の策定、敷根公園屋内温水プールの長寿命化計画を策定し、伊豆縦貫自動車道の発生土を活用した新たな公園整備も検討してまいります。

2. 郷土への誇りと愛着を育むまち

子どもたちが、未来の下田を担う人材になれるよう、魅力ある教育内容を提供し、確かな学力と豊かな心、健やかな身体の育成に取り組むとともに、市民がまちに愛着を持ち、地域を支える人材となって、自分らしく輝いて暮らせる環境づくりを目指してまいります。

グローバル人材の育成に向けた姉妹都市ニューポート市や大学と連携した国際交流事業を通じ、国際的な視野と異文化への理解を養うとともに、地域資源や地域人材を活用した地域体験学習活動を推進してまいります。高等学校等通学への支援につきましては、家庭環境にかかわらず進路を選択できる環境整備と、市内または賀茂地域内の高等学校の存続を目指し、新たに高等学校通学費補助制度を創設し、支援に取り組みます。

その他、図書館機能と公民館機能の一体化による新しい文化と交流の創出拠点の整備やまちじゅう図書館事業の推進、サーフシティの推進、誰もがスポーツを楽しめる環境づくりや官民連携組織「下田市スポーツコミッション」によるスポーツ合宿・大会の誘致を進め、健康的で活力ある社会の実現を目指します。

3. 人が集い、活力のあるまち

従来観光に磨きをかけ、さらに社会の価値観やライフスタイルの変化を捉え、生活と観光のいずれも楽しめる魅力あるまちづくりとともに、幅広い人々が集い、にぎわう、活力のあるまちを目指してまいります。

令和8年度を初年度とする第3次下田市観光まちづくり推進計画（令和8～12年度）に基づき、本市固有の自然や歴史、文化、暮らしといったオーセンティック（日常にある本物）を本市の観光的価値と位置付け、その価値を最大限に活かす観光を推進してまいります。また、観光を持続的に主要産業として発展させていくため、あらゆるステークホルダーがそれぞれの役割を明確にし、その強みを発揮できるよう支援し、地域が一体となった観光まちづくりを推進してまいります。

4. 安全・安心なまち

自然災害の脅威、犯罪や事件・事故に備え、市民の生命・財産を守り、安全・安心を実感できるまち、障害・年齢・性別等にかかわらず、誰もが個性を認め、互いに支え合いながら、心身ともに健康でいきいきと暮らせるまちを目指してまいります。

南海トラフ巨大地震を始めとする自然災害に備えるため、災害用備蓄品の購入や災害情報管理システムの強化、可搬型空調機の配備等避難関連施設の整備を進めるとともに、防災講演会による市民意識の啓発や災害対策用品購入への補助等を実施し、避難の生活環境改善を進めてまいります。

さらに、各種団体等との避難関連の協定の締結や様々な機関や団体と連携した訓練の実施、ボランティアとの連携強化を図るなど、関係機関との連携、情報共有を進め、「危機管理投資」を展開します。

耐震改修につきましては、地震による住宅の倒壊を防ぎ、一人でも多くの命を救うため、安価で効果的な耐震改修支援制度のさらなる推進を図るとともに、防災ベッド整備事業等の減災事業も実施し、住宅の安全対策を推進してまいります。

令和8年度施政方針

的確な 市政運営



～課題を正確に捉え、課題に応じた連携「つながり」を強化～

【市政の方針】

令和8年度は、第5次下田市総合計画の後期基本計画、後期5か年がスタートします。この後期基本計画は、基本構想に定めるまちの将来像「時代の流れを力に、つながる下田 新しい未来」のもと、「海と人に感動、開国フロンティア下田」を目標に掲げ、次なる5年間の市政運営に踏み出します。

人口減少、少子高齢化による社会の担い手不足、物価高騰等による財政のひっ迫など、ともすれば閉塞感に陥るリスクがあります。しかし、こういう時こそ幕末開港のまち下田市として、将来に向けた志を掲げ、萎縮せず、壁を突破する取組に挑戦することが肝要と考えます。

令和8年度の市政運営においては、特に重点的に取り組む方針として「つながる」、「グローバル」、「公共経営改革」の3つを掲げました。

重点方針の一つ目は、第5次下田市総合計画基本構想に掲げるまちの将来像に基づき、「つながる」とします。カナダのカリーニ首相の言

葉、「課題ごとに機能する連合の構築」のとおり、賀茂地域や伊豆半島における広域市町間の連携、国・県との垂直連携、公有財産の活用への民間活力の導入、地域課題の解決に向けた産官学の連携、防災や福祉の充実に向けたボランティアとの連携、行政課題の解決に向けた市民との協働、ふるさと応援寄附や二地域居住等による関係人口との連携等、課題ごとに異なるネットワークを構築することで、様々な主体とタテヨコに連携するプロジェクトを幅広い分野において展開します。

重点方針の二つ目は、「グローバル」です。

本年度は、第1期グローバルCITYプロジェクトの最終年度となります。アメリカ合衆国建国250周年の節目での黒船祭、大学等研究機関との共同研究事業などを実施します。また、ローカルをテーマとして、歴史と文化の継承やサーフシティ構想の推進、海の環境保全プロジェクト等、下田市の地域資源の再評価や活用を展開してまいります。

令和9年度からスタートする第2期のグローバルCITY

プロジェクトに向け、内容を深化するべく各分野において検討を行ってまいります。

重点方針の三つ目は、「公共経営改革」です。

令和7年度末までに「下田市の公共経営改革に向けた実行計画（令和8～12年度）」が取りまとめられます。令和8年度は、下田市の行政の効率化と財政基盤の強化を目指し、すべての分野において改革をスタートします。

市役所新庁舎整備事業は、いよいよ完成が近づき、本年5月には全面移転が完了します。行政機構が集積することで各種行政システムを抜本的に見直し、効率的で、かつ質の高い行政運営を行ってまいります。

【予算編成の方針】

令和8年度当初予算は、将来を見据え、行財政の体質改善を図っていく「公共経営改革」の推進に向けた取組方針に基づき、ムダを徹底的に廃し、さらに新たな財源の確保により、今後も魅力的なプロジェクトにチャレンジしてまいります。中でもとりわけ重要なものが危機管理投資で



3月定例会の様子

す。まちの安全を強化するための各種事業を行うことで、平時でも活用できる、即ち未来の希望につながる防災事業を展開してまいります。

令和8年度は、第5次下田市総合計画の後期基本計画の初年度となることから、単年度はもとより、中長期を視野に入れたより実効性のある予算とすべく、全職員が共通の目標を掲げ、高い意識を持って取り組むこととした上で、総合計画におけるまちづくりの4本の柱に沿って予算編成に当たることとしました。